

【参考2】用語解説

あ行

アニマルウェルフェア

家畜を快適な環境下で飼育することにより、家畜のストレスや疾病を減らす取組のことです。国際獣疫事務局(WOAH)では、「動物が生きて死ぬ状態に関連した動物の身体的及び心的状態」と定義されています。

磯焼け

沿岸の岩礁域に繁茂するアラメやカジメなどの大型藻類の群落が、季節的な変化の域を超えて長期間にわたり消失し、再生しない状態をいいます。

稲ホールクロップサイレージ（稲WCS）

稲の穂と茎葉を一体でロール状にし、フィルムで包んで発酵させた牛の飼料です。

インバウンド

「入ってくる・内向きの」という意味で、観光業関係では、外国人旅行者を自国へ誘致することをいいます。

ウインドウレス鶏舎

窓(ウインドウ)のない(レス)閉鎖型の構造で、温度や照明時間、換気を人工的に制御する鶏舎です。

海業

海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用し、国内外からの多様なニーズに応えることで、地域のにぎわいや所得と雇用を生み出す取組です。

営農的排水対策技術

大がかりな工事等を伴わず、生産者等が所有又は利用できる機械を用いて営農作業として実施できる排水対策技術のことです。

か行

海況情報、漁海況情報

海況情報は水温・塩分、水塊、海流、水色、化学成分、プランクトン分布などの要素によって表される海の総合状態に関する情報のことをいいます。漁海況情報は、魚群来遊量や漁期、漁場位置、魚群性状、魚体組成などに関する情報と海況情報を合わせた情報のことをいいます。

ガストロノミーツーリズム

その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的としたツーリズムのことです。

漁獲可能量（TAC）

水産資源ごとに1年間に採捕することができる数量の最高限度として定められる数量をいいます。TACとは「Total Allowable Catch（漁獲可能量）」の略です。

魚礁

広義では、魚類が多く集まる場所のことを言います。ここでは、魚を一か所に多く集めるために設置する人工的な構造物のことを意味しています。

【参考2】用語解説

グリーン・ブルーツーリズム

緑豊かな農山漁村に出かけ、農家民宿などに滞在し、地域の農林水産業・文化・自然を体験したり、地元の人々との交流を楽しむ余暇活動のことです。日帰りのできる農林漁業体験や、直売所での地産地消の取組なども含まれます。一般的には「グリーン・ツーリズム」と呼ばれますが、千葉県では三方を海に囲まれた自然環境を活用し、農林と水産が一体となって推進するという意味を込めて「グリーン・ブルーツーリズム」と称しています。

黒アヒージョ

オリーブオイルとニンニクで食材を煮込むスペイン料理「アヒージョ」に、隠し味として千葉県が生産量日本一を誇る「しょうゆ」を加えた料理です。

耕畜連携

耕種農家が畜産農家から購入した堆肥を施用したほ場で飼料作物を栽培し、畜産農家が収穫物を家畜のエサとして購入し、家畜ふんを堆肥化して耕種農家に販売するなど、耕種農家と畜産農家が連携して、飼料作物と堆肥を循環させる取組のことです。

高度衛生管理

水産物の陸揚げから荷捌き、出荷までの各工程において、生物的、化学的、物理的危険を分析・特定の上、危険要因を取り除くためのハード及びソフト対策を講じることにより、総合的な衛生管理を行うことです。

荒廃農地

耕作放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地のことです。

高病原性鳥インフルエンザ

鶏に対して伝染力が強く、死亡率の高い伝染病のことで、家畜伝染病予防法に基づき通報や殺処分等が義務付けられています。本県においても発生しており、養鶏経営や鶏卵供給などに様々な影響が生じています。

混獲

水産物を漁獲する際に、本来の漁獲対象以外のものが意図せず漁獲されることをいいます。

さ行

里海

昔から豊かな海の恵みを利用しながら生活してきた、人のくらしと強いつながりがある地域のことをいいます。

里山

人による維持管理がなされていた一団の樹林地、草地、湿地、水辺地又はその他類する土地が一体となって構成される地域のことをいいます。

産地間連携

県内において園芸作物等の生産・出荷を行う複数の生産団体間が、需要先のニーズに対応するため、出荷規格・資材の統一や作付品種の選定・出荷時期などについて協議・連携して取組を行うことです。

事業継続計画（BCP）

Business Continuity Plan(事業継続計画)の略称です。自然災害等の緊急事態に遭遇した場合において、損害を最小限にとどめ、中核事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために緊急時における事業継続のための方法等を予め取り決めておく計画を指します。

【参考2】用語解説

地すべり

斜面の一部が地下水や重力の影響によって、ある程度原型を保ったままゆっくりと下方に移動し、ある地点で急激に崩れる現象をいいます。

脂肪の質の評価

遺伝的能力評価の項目の一つです。評価の高い繁殖和牛から生まれた肉用牛は、オレイン酸を含むMUFA(一価不飽和脂肪酸)の割合が高くなる傾向があり、脂肪の口どけが良い牛肉となる可能性が高まります。

市民活動団体

地域や社会の問題を解決するために自発的に活動している団体で、NPOとも呼ばれ、NPO法人・ボランティア団体など任意団体等の総称のことをいいます。

収入保険、農業・漁業共済

農業者や漁業者の経営努力では避けられない自然災害等により損害を被ったときに、損失が補償される公的保険制度です。加入条件、支払対象などは保険又は共済の種類ごとに異なります。

集落営農組織

集落内の農家が、農業生産の全部または一部を共同で実施する営農組織のことです。

種苗放流

水産資源の維持・増大を図るため、稚貝や稚魚を放流することです。

飼養衛生管理基準

家畜伝染病予防法に定める、家畜の飼養に係る衛生管理の方法を示した基準です。家畜防疫や衛生状態の確保、病原体の侵入防止・散逸防止など、畜種ごとに定められています。

食肉センター

牛・豚等の飼養地域に設置される、牛・豚等のと畜、部分肉処理を一貫して行う食肉処理施設のことです。

飼料用米

鶏や豚などの家畜の飼料として利用される米のことです。

森林環境譲与税

温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を目的として、市町村が実施する森林整備などに必要な財源を確保するために創設された制度です。

森林クラウド

これまで各ユーザー(都道府県、市町村、森林組合等)で管理していた森林の現況や地形などの森林情報を、クラウド上で一元的に管理するシステムです。

森林の有する多面的機能・公益的機能

森林が有する水源涵養、土砂災害防止、CO₂吸収、物質生産機能等の多様な働きの総称です。公益的機能はその中でも、特に社会全体の利益に直結する機能を指し、多面的機能のうち物質生産機能以外の機能を指します。

【参考2】用語解説

水産バリューチェーン

水産物の生産から製造・加工、流通、消費に至る各段階の付加価値を高めながらつなぎ合わせることで、食を基軸とする付加価値の連鎖を作ることです。

水産流通適正化法

違法に採捕された水産動植物の流通を防止するため、特定の水産動植物等について、取扱事業者間における情報の伝達、取引の記録の作成・保存、適法に採捕されたものである旨を証する書類の輸出入に際する添付の義務付け等の措置を講ずるものです。

スギ非赤枯性溝腐病

ひあかがれせいみそくさびょう
木材腐朽菌による病害で、特に戦後広く植栽されたサンブスギ林で被害が拡大しています。幹を腐朽させて材価を著しく低下させるため、林業上の大きな問題となっています。

スマート農林水産業

ロボット、AI、IoTなどの先端技術を活用し、生産性向上や人手不足の解消を目指す農林水産業です。

生分解性資材

農作物の栽培が終わった後に圃場の土壌にすき込むことで、土壌の中にいる微生物の働きによって、水と二酸化炭素に分解されてなくなる生分解性素材の資材です。剥ぎ取り等が不要になることからマルチ等で使用されています。

た行

ターン農道

路肩を緩やかなスロープにした農道で、スマート農機が任意の箇所まで農道へ上がって旋回できるようになり、操舵ミスの低減と作業効率の向上につながります。

田んぼダム

水田からの排水量を調節し、水田に降った雨水をゆっくり排水することで、水路や河川の水位上昇を抑え、洪水被害を軽減する取組です。

地域計画（地域農業経営基盤強化促進計画）

市町村が、農業者等の協議の結果を踏まえ、農業の将来の在り方や農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標として農業を担う者ごとに利用する農用地等を表示した地図などを明確化し、公表した計画のことです。

畜産クラスター

畜産農家をはじめ、地域の関係者（コントラクター等の支援組織、流通加工業者、農業団体、行政等）が連携し一体的に結集することで、畜産の収益性等を地域全体で向上させるための体制のことです。

地産地消

「地域で生産された農林水産物を、その地域で消費すること」を意味します。

ちばエコ農業

環境負荷低減の取組を進めるため、通常と比べ化学合成農薬や化学肥料を2分の1以上減らした栽培を行う産地を指定し、これらの産地などで栽培された農産物について県独自の認証を行う制度です。

【参考2】用語解説

千葉県海洋人材確保・育成センター

新規漁業就業者の確保・育成に向けて、漁業就業に関する情報提供や就業に向けた漁業体験、就業後の技術習得に向けた研修など各種支援を実施している就業相談・支援の総合窓口です。

千葉県地域資源活用・地域連携サポートセンター

農山漁村の活用可能な地域資源を他分野と組み合わせること等により活用し、地域における新たな事業・雇用機会の創出(6次産業化の発展)を推進するため、専門的な知識を有する人材を活用・派遣する等の支援を行う機関のことで。

千葉県農業者総合支援センター

農業に関する様々な相談への対応などを行う、農業者支援のための総合相談窓口です。「県」、「千葉県園芸協会」、「千葉県農業会議」、「JAグループ千葉」の4団体で構成された、千葉県農業者総合支援協議会が運営しています。

千葉県農林水産物輸出活性化取組方針

県産農林水産物の輸出を一層活性化させるため、輸出ポテンシャルのある品目や、輸出のターゲットとなる国・地域、また、成田市場、成田空港を活用した輸出の現状と課題、生産・流通・販売の各段階における支援の方向性などを整理し、令和6年(2024年)5月に策定したものです。

千葉県林業労働力確保支援センター

「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づき都道府県知事が指定するものです(千葉県では平成19年に指定)。林業事業者の事業の合理化や雇用改善の支援、林業就業希望者の相談対応等を行っています。

千葉県6次産業化・農商工連携推進協議会

県内における農林漁業者等の6次産業化及び農林漁業者と中小企業者との連携による農商工連携の取組を推進するため、関係機関・団体等で構成する協議会のことです。

低利用・未利用魚

魚体のサイズが不揃いであったり、漁獲量が少なくロットがまとまらないなどの理由から、食用にされない魚や、低価格でしか評価されない魚のことで。

土地改良区

農業水利施設の建設、管理等の土地改良事業を行うことを目的として土地改良法に基づいて設立される法人です。

トレーサビリティ

trace(追跡)とability(可能性、能力)の2つの単語を合わせた言葉で、生産・流通過程を通じて食品の移動を把握できることを意味します。

な行

農業水利施設

農地に農業用水を供給する用水施設(ダム、ため池、揚水機場、用水路など)や、排水を下流に流す排水施設(排水機場、排水路など)のことです。

農地の集積・集約化

農地の「集積」とは、農地の所有や借入れにより、利用面積を拡大することです。農地の「集約」とは、農地の利用権交換などにより、効率的に作業が行えるように配置を整えることです。

【参考2】用語解説

農泊・渚泊

農山漁村で伝統的な生活体験や地域の人々との交流を楽しみ、農林漁家民宿や古民家などに宿泊して、その土地の魅力を味わう滞在型旅行のことです。

農福連携

農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組です。

は行

バイオマス

再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたものを指します。水と二酸化炭素から生物が光合成で生成する有機物であり、太陽エネルギーと生命がある限り持続可能な資源です。

浜の活力再生プラン、浜の活力再生広域プラン

浜の活力再生プランは、漁業所得の向上と漁村地域の活性化を目指すため、漁業者や地域が主体となって具体的な取組を実行するための計画のことです。浜の活力再生広域プランは、浜の活力再生プランに取り組む漁村地域が広域的に連携して、浜の機能再編や中核的担い手の育成を推進するための具体的な取組を定めた計画のことです。

ひんさんそすいかい 貧酸素水塊

溶け込んでいる酸素が極めて少なく、生物の生息に適さない水の塊のことです。閉鎖的な水域で、底層に沈んだ多量の有機物を細菌が分解するとき、水中の酸素が消費されて発生します。

ファストフィッシュ

手軽・気軽においしく水産物を食べること及びそれを可能にする商品や食べ方のことです。

ブルーカーボン

藻場などにより吸収・固定された二酸化炭素由来の炭素のことです。

プロダクトアウト、マーケットイン

プロダクトアウトは、生産者側の強みや考えを優先させて、商品開発や生産・販売活動を行うことです。マーケットインは、生産者が市場や消費者の視点に立ち、商品開発や生産・販売活動を行うことです。

防災重点農業用ため池

万一決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのある農業用ため池で、県内では383箇所が指定されています。

房総ジビエ

県内で捕獲され、県内の食肉処理施設で適切に処理・加工されたイノシシやシカの肉のことです。

ホールクロップサイレージ用稲（WCS用稲）

牛の飼料に利用する稲のことで、穂と茎葉をロール状にし、フィルムで包み込む等して発酵させて利用します。

【参考2】用語解説

ま行

みどり認定

みどりの食料システム法に基づき、土づくり・化学肥料及び化学合成農薬の使用量低減の一体的取組や温室効果ガスの排出量削減などの環境負荷低減に取り組む農業者の計画を県が認定する制度です。

木育

子供から大人までを対象に、木材や木製品との触れ合いを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動をいいます。

藻場

沿岸域の海底に見られる大型の海藻・海草が群落を形成している場所のことで、様々な生物に餌場や隠れ場、産卵場所などを提供し、海の豊かな生態系を支えています。水中の窒素やリン、二酸化炭素を吸収して酸素を供給する機能もあります。

や行

有機農業、有機JAS制度

有機農業は、化学肥料や化学合成農薬を使用せず、遺伝子組換え技術も使わないことを基本とし、環境負荷をできる限り低減する農業方法です。有機JAS制度は、日本農林規格等に関する法律（JAS法）に基づき、「有機JAS」に適合した生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証された事業者が「有機JASマーク」の使用を認める制度です。

輸出重点品目

輸出活性化取組方針で定めた輸出ポテンシャル品目をベースとし、既に輸出実績があって、品質や生産量の点から県産に優位性があり、今後の輸出拡大が見込まれる品目です。

ら行

来遊

魚類などが回遊や季節的移動で特定の海域や河川にやってくる現象をいいます。

流域治水

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。

流通拠点漁港

産地市場を有し、地域の水産物が集約される水産物流通の拠点となる漁港のことです。

レンジング装置

家畜の死体を破碎・加熱処理し、減容化と病原体の不活化を行う装置です。家畜伝染病が発生した際、殺処分を行う農場の周辺に一時的に設置して使用します。

6次産業化

農林漁業者（一次産業の担い手）が、加工（二次産業）や販売・流通（三次産業）にも取り組み、生産物の高付加価値化や経営の多角化を図ることです。

露地野菜

ハウスなどの園芸施設を使わず、屋外の農地で生産される野菜のことです。

【参考2】用語解説

アルファベット

GAP

Good Agricultural Practices(農業生産工程管理)の略称で、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に即して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のことです。

HACCP

原材料の受入れから製品完成までの各工程で、微生物汚染や異物混入などの危害要因を分析し、重要な管理点(CCP)を継続的に監視・記録する衛生管理システムです。

ICT

Information and Communication Technology(情報通信技術)の略です。

IoT

インターネット・オブ・シングス(Internet of Things)の略で様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みです。

SDGs

世界全体の経済、社会及び環境の三側面を、不可分のものとして調和させ、誰一人取り残すことなく、持続可能な社会を実現するための統合的取組であり、国際社会全体の普遍的な目標です。

SGEC

(一社)緑の循環認証会議が運営する国際森林認証制度のひとつです。森林経営の持続性や環境保全への配慮等に関する一定の基準に基づいて森林を認証するとともに、認証された森林から産出される木材及び木材製品(認証材)を分別し、表示管理することにより、消費者の選択的な購入を促す仕組みです。

